

地域リハビリテーション出前講座について

1. 実施の経緯

平成27年度に作成した「千葉県における今後の地域リハビリテーション支援体制のあり方に関する報告書」の中で、住民参加の促進として地域組織や教育機関への働きかけが重要であるとされた。

そこで、教育機関への働きかけとして、平成28年度にモデル的に出前講座を実施することとした。

2. 目的

高齢者や障害のある方を含めた全ての方が安心して暮らすことの出来る地域社会の実現に向け、子供の頃から適切な健康感やノーマライゼーションの考え方を学習することが重要である。

そのため、希望する小学校にリハビリテーション専門職を派遣し体験講座を行うことにより、地域リハビリテーションに対する関心を深めることを目的とする。

3. 講師

千葉県リハビリテーション支援センター（千葉リハビリテーションセンター）所属のリハビリテーション専門職。

4. 実施期間

平成28年9月1日から平成29年2月28日まで

5. 講座内容

車椅子による学校体験、高齢者歩行の疑似体験など

6. 応募状況

県内の公立小学校に通う5年生又は6年生を対象に募集を行った結果、12校からの応募があった。

地 域	校 数
千葉市内	4校
木更津市内	1校
松戸市内	2校
柏市内	1校
市原市内	1校
八千代市内	2校
大網白里市内	1校
計	12校

「平成 28 年度地域リハビリテーション出前講座」実施要領

1 目的

高齢者や障害のある方を含めた全ての人々が安心して暮らすことの出来る地域社会の実現のためには、子供の頃から適切な健康感やノーマライゼーションの考え方を身につけることが望ましく、教育機関が地域リハビリテーション教育の機会を積極的に設けることが重要である。

本事業は、県が、希望する小学校にリハビリテーション専門職を派遣し体験講座を行うことにより、地域リハビリテーションに対する理解と関心を深めることを目的とする。

2 対象

出前講座の対象は、千葉県内の公立小学校（10校程度）に通う5年生又は6年生とする。

3 実施方法

(1) 実施方式

原則、授業（総合的な学習の時間）の一環として、クラス単位で講座を行うものとする。

(2) 講座内容

申込者の希望に基づき、講師と協議のうえ調整する（本講座で対応可能な内容の例示は別添のとおり）。なお、必要物品は原則、申込者が調達することとする。

(3) 講師

千葉県リハビリテーション支援センター（千葉リハビリテーションセンター）所属のリハビリテーション専門職。

4 申込み方法

講座を希望する小学校は、平成 28 年 6 月 30 日までに、別紙「地域リハビリテーション出前講座申込書」により、健康づくり支援課地域リハビリ班に F A X 又は郵送で申し込みを行う。

＜申し込み・問い合わせ先＞

千葉県庁健康づくり支援課地域リハビリ班

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町 1-1

FAX:043-225-0322 TEL:043-223-2482

5 実施時期

平成 28 年 9 月 1 日から平成 29 年 2 月 28 日までの間で、申込者及び講師との協議により調整する。

「平成 28 年度地域リハビリテーション出前講座」講座内容例

例 1 車椅子による学校体験

趣旨	車椅子利用者の生活の幅を狭める大きな原因の1つに物理的環境があることを理解し、日常生活の行動への気付きに繋げる。
内容	生徒が日常利用する校舎内を車椅子で移動し、手を洗う、トイレに入る、黒板に字を書く等の動作を体験する。体験後は、校舎環境の振り返りを行うとともに、日常生活場面を想定して問題点と解決策を考える。
必要物品	車椅子（生徒 4 名に 1 台程度）
対応人数	40 名以内
時間数	連続した 2 単位時間（1 単位時間でも可能）
その他	事前課題として、「学校内で車椅子を使用する場合、どのようなことが困難か」を考える時間を設けることが望ましい。

例 2 高齢者の視力・聴力の疑似体験

趣旨	加齢による視力・聴力の低下を疑似体験することにより、高齢者への接し方への気付きにつなげる。
内容	レストランでのメニュー選びの場面を想定して、見えにくさ・聞こえにくさを体感するとともに、意見交換によりその裏にある高齢者の孤独感や諦念等の心境にまで考えを巡らせる。
必要物品	防塵用ゴーグル（4 名に 1 個程度） 防塵用耳栓（各人 1 組）（防塵用ヘッドホンで代用する場合、4 名に 1 個程度） ファミリーレストラン等の広告紙（各人 1 枚）
対応人数	40 名以内
時間数	連続した 2 単位時間（1 単位時間でも可能）
その他	事前課題として、「高齢者（視力・聴力が低下した状態）がメニューを見るとき、どのように感じるか」を考える時間を設けることが望ましい。

例 3 高齢者歩行の疑似体験

趣旨	加齢による歩行機能の低下を疑似体験することにより、高齢者への接し方への気付きにつなげる。
内容	新聞紙で作った装具を両膝関節に装着することにより、高齢者が感じている体の不自由さを体験するとともに、日常生活で歩行する高齢者に接した際に必要な配慮を考える。
必要物品	新聞紙（各人朝刊 1 日分） ガムテープ及び養生テープ（クラスに数本）
対応人数	40 名以内
時間数	連続した 2 単位時間（1 単位時間でも可能）
その他	事前課題として、「高齢者（歩行機能が低下した状態）が日常生活において、どのようなことに不便さを感じるか」を考える時間を設けることが望ましい。

地域リハビリテーション出前講座申込書

平成 年 月 日

申込者	住 所			
	(フリガナ) 学 校 名			
	(フリガナ) 担当者名			
	電 話		F A X	
	E-mail			
学年・クラス				
受講人数		名		
受講希望日程		第1希望：平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分～ 時 分 第2希望：平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分～ 時 分 第3希望：平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分～ 時 分		
希望内容等を御記入ください。				

※申込み受付期間終了後に、上限数、希望日程及び地域的な偏り等を考慮し、調整を行います。
 応募状況によっては御辞退いただく可能性があります。御了承下さい。